

令和5年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	2	学校名	静岡視覚特別支援学校	記載者	村田 健二
------	---	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	評価	関係者 評価	成果と課題
【育む】	○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の充実と改善を図る。	①チーム研修を中心に、幼児児童生徒のあられや事後研から授業改善につなげることができたと答える教職員（100%）	A	A	幼児児童生徒が大変落ち着いて学習に取り組んでいる。実態に合わせたきめ細かい指導ができていて良い。
		○授業や活動を「わかった」「できた」「もっとやりたい」などと答える幼児児童生徒（100%）	A	A	アンケート結果からも良い評価となっている。引き続き「わかる授業づくり」に努めてほしい。
		○ICT機器の充実と適切な活用のために充当した学校経営予算の割合（10%程度）	A	A	概ね良い。
		④授業や生活場面において集団構成を工夫して、子ども同士や多様な他者と学び合う場面を設定したと答える教職員（100%）	A	A	オンラインの活用や居住地校での交流など大変意義のある交流ができています。今後も継続してほしい。
		⑤全教職員が1人1授業公開を実施（100%）	A	A	概ね良い。
	○将来の生活を豊かにするためのキャリア教育を推進する。	⑥キャリア教育学習プログラムを活用し、学部内で年に2回以上検討する。	A	A	基本的な生活習慣が整っていること、また、困っていることを伝えられることは、どの事業所等に行っても必要な力となる。継続的な支援をお願いしたい。
		○学校からの情報を参考に、進路に関する考えが深まったと答える保護者（100%） ・進路学習会 施設見学会(1回) ・進路だよりの発行（3回）	A	A	アンケート結果からも良い評価となっている。今後も学習会の機会を増やしてほしい。
【守る】	○幼児児童生徒が、互いを尊重して安全で安心して生き生きと学習できる環境を整備する。	①人権学習会やグループワーク等を学部ごと年3回実施する。	A	A	社会が大きく変化する中で、人権意識の向上や適切な支援は、とても重視される。今後も研修等を通じ、意識の向上に努めてほしい。
		②来室した幼児児童生徒を尊重した対応をした職員（100%）	A	A	概ね良い。
	○幼児児童生徒の健康管理の徹底と危機管理体制を整備する。	③医療的ケア、アレルギー対応を含む幼児児童生徒の怪我や、体調の変化による緊急時の対応を理解し、学部やグループ内で共有できた教職員（90%）	A	A	概ね良い。

	取組目標	成果目標	評価	関係者 評価	成果と課題
		④各学部、分掌と連携し、幼児児童生徒が安心して活動したり、移動したりするための学習環境整備を行った教職員。(100%)	A	A	移転後に教員がアイマスクをして、幼児児童生徒の安全について考える取組は素晴らしい。今後も、幼児児童生徒の様子を見ながら、環境整備を進めてほしい。
		⑤移転前後の学校において、動線上の障害や教室内の不具合を修繕等により解消又は軽減した件数(5件程度)	A	A	とても良い学習環境が整えられている。継続をお願いする。
		⑥発災時における時系列に沿った行動を理解し、訓練や研修等で共有できた教職員(90%以上)	A	A	繰り返しの防災訓練や不審者対応訓練が必要である。今後も、幼児児童生徒の安全を守ってほしい。
【つなぐ】	○教職員の専門性の維持・継承と授業力を向上させるとともに、そのための職場環境を整備する。	①新任研や自立活動学習会などで学んだことを活かし、専門性を向上した教職員。(90%以上)	A	A	概ね良い。
		②自他を大切にし、お互いの人権を尊重した関わりができたと答える教職員(90%)	A	A	概ね良い。
		③会議や業務が計画的かつ効率的に進められ、成績処理業務や新しい環境での授業準備に充てる時間をもてたと答える教員(80%以上)	A	A	成績処理の時間の確保等、働き方改革への取組が進んでいる。年間授業時数の見直しの取組など、徐々に進めてほしい。
		④業務を効率的に処理できるような手立てを検討又は実施した件数(10件程度)	A	A	概ね良い。
【つながる】	○超早期から成人まで切れ目のない支援体制(地域支援体制の充実)	①眼科や保健師等と連携して早期支援につなげた取り組み(10件)	A	A	病院眼科医や保健師等の関わりが充実してきている。今後も地域への支援の取組を継続してほしい。
		②関係機関(医療や福祉等)に向けた視覚障害教育の理解推進活動(10件)	A	A	概ね良い。
	○他者との交流を大切にし、幼児児童生徒の周囲への興味・関心を広げ、社会経験の拡大と社会性を育む。	③交流相手校と連携して計画し、幼児児童生徒が活動を楽しめた、充実した時間をもてたと答える教員(100%)	A	A	他の学校の児童生徒と触れ合い、いろいろな考えを聞き、自分の思考を広げていくことが大切である。今後も交流を増やしてほしい。
	○地域との連携・協働体制の整備を図る。	④幼児児童生徒の興味・関心を広げたり学びを深めたりするために、外部人材や校外学習等を活用できたと答える教職員(80%)	A	A	引き続き外部人材を活用しての取組を広め、地域とともにある学校づくりに努めてほしい。
		⑤協議会の意見を反映し、幼児児童生徒と地域が連携した取組ができる。(3回以上)	A	A	学校運営協議会の話し合いの内容を教職員が理解して、協議会と一体となった支援を進めてほしい。